

いちき串木野市地域学校協働活動

学校応援団だより

～できることを できるときに できるところから～ No. 5-10(220)

＝みんなで支える学校 みんなで育てる学校＝ 令和5年10月31日

いちき串木野市地域学校協働活動事業本部

照島小学校ボランティアグループ「てるてるクラブ」さんによる読み聞かせ



西山さんによる「昭和の暮らし」読み聞かせ



引坂さんによる「童謡イントロクイズ」

読み聞かせボランティアグループ「てるてるクラブ」さんは、照島小学校で「読み聞かせ」活動を21年間続けられています。毎週1回、朝の職員会議の時間（8：20～8：45）に行います。

9月7日（木）は8名、9月21日（木）は10名のボランティアの方が照島小学校で「読み聞かせ」をされました。

西山さんは5年生の教室で、昭和の暮らしの様子「ご飯炊き、かまど、七輪、ぼたもちとおはぎ」について話されました。17年前、色鉛筆で書かれた画用紙を用いての話です。昔の生活の様子が平易に語られ、日本人は何を大切に生きてきたのかが良く分かりました。

語り継がれる習慣、伝統、知恵に大切なものがあることを子どもたちは理解できたと思います。

引坂さんは2年生の教室で、鍵盤ハーモニカを用いてイントロクイズをされ、「桃太郎」、「浦島太郎」、「金太郎」を軽快に演奏され、子どもたちを魅了しました。続いて、「だれのパンツ」の絵本を読まれ、落ちてきたヒョウ柄の大きなパンツの持ち主を探す話をされました。次々と出会う動物や人ごとに、音楽が入り、足や手でその場面を表現されました。音楽と絵本が一体となり、子どもたちは、時間を忘れ、話に引き寄せられました。

読み聞かせは、子どもの言語発達や読解能力を向上させ、想像力や感情を醸成させます。「てるてるクラブ」皆さんの活動は、子どもたちの成長を促す、重要な活動だと思われました。

市来小学校でのミシン実習の支援



糸かけを教える下池さん



完成したナップサック

子どもたちはミシン縫いは不慣れで、授業中にヘルプが予想されます。ボランティアの方が市来小学校で9月14日（木）、15日（金）に6年生のミシン実習を手伝いました。

6～7グループに分かれ、ミシンでナップサックを縫いました。半年ぶりのミシンで最初は忘れていた部分も多々ありました。グループごとにボランティアの方が付かれ、迷いなく下糸や上糸をセットでき、子どもたちは、縫い方を早くマスターできました。

今年は、ミシンが8台新調されたこともあり、大きなトラブルもなく授業が進み、みごとなナップサックが出来上がりました。



「生地」の送り出し

推進委員の下池さんがミシン操作に堪能な多くのボランティアを集めてくださいました。おかげ様で、スムーズに授業が進みました。また、ナップサック作りのマニュアルを事前に先生から頂き、ボランティアの方に配付されたため、子どもたちを迷いなく支援できました。

推進委員の下池さんや多くのボランティアの手助けに大変感謝しました。

連絡先＝市来庁舎3階 市教育委員会 社会教育課

(Tel21-5128)(FAX36-5044)／ご意見・質問・相談もどうぞ

地域学校支援コーディネーター（有元 操・藤崎 裕史）

* 本応援だよりは右のQRコードを読み取り、カラー版でご覧頂けます。
市立図書館（本館）掲示板にも張り出してあります。

